

代表的な毒きのこ

テングタケ

(イボテングタケ)

夏から秋、広葉樹やマツ林内に点々とあるいはかたまって発生する。味、においとも温和。誤食すれば胃のむかつきにつづき、おう吐、下痢、悪寒、視力障害や幻覚症状をあらわす。

傘：径6～25cm、幼菌は球形、のち丸山形から開いて扁平となり、表面は灰褐色～暗褐色の地に白色のつぼの破片が点在する。

ひだ：白色で柄に離生し、密。

柄：白色でほぼ中間部に白い膜質のつばがあり、根元は球根状にふくらむ。つぼのなごりが数段の環状となってあらわれる。

※テングタケの仲間にイボテングタケがある。どちらも毒きのこ。

※札幌市内では、テングタケ(イボテングタケ)の誤食により、平成15年、平成23年、平成27年及び平成28年に各1名ずつが全身のしびれやおう吐、幻覚などの症状を呈する食中毒が起きた。



代表的な毒きのこ

危険

ドクツルタケ

夏から秋、広葉樹かマツの混じる林内に発生する白色の猛毒きのこ。誤食すれば激しいおう吐と下痢がはじまり、やがてコレラ様の脱水症状を起こし、最悪の時は死に至る。

傘：径5～15cm、表面は白色で絹のような光沢がある。

ひだ：白色で柄に離生し、密。

柄：白色で表面に著しいササクレを生じ、上方に膜質の白いつばがある。根元には袋状の白いつばがある。



危険

シロタマゴテングタケ

夏から秋、ブナのほか、広葉樹やマツの混じる林内に点々と発生する。中毒症状はドクツルタケと同じである。

傘：径5～10cm、表面は白色、ときに中央部がわずかに黄色を帯びるものがある。

ひだ：白色で、柄に離生し、密。

柄：白色でわずかに絹光沢があり、多少繊維状となるが、ドクツルタケにみられるようなササクレはない。上部に膜質の白いつばがあり、根元には袋状の白いつばがある。

代表的な毒きのこ



危険 タマゴテングタケ

夏から秋、広～針葉樹の林内に点々と発生する。誤食するとコレラにかかったような症状で死亡するという。

傘：径7～15cm、表面は帯黄灰色～オリーブ緑色をおび、暗色の繊維紋におおわれる。

ひだ：白色で、柄に離生し、密。

柄：高さは8～20cm。上方に膜質の白いつばがあり、根元は球根状にふくらみ、袋状のつぼがある。

危険 タマゴタケモドキ

夏から秋にかけて、広葉樹のブナ、ミズナラ、コナラ、シラカバや針葉樹林に発生する。誤食するとおう吐と下痢がはじまり、やがて肝臓・腎臓細胞が破壊され、最悪の時は死に至る。

傘：径3～7cm、表面はくすんだ橙黄色か黄土色で、周辺は黄色。ときに白いつぼの破片をのせ、湿ると弱い粘性がある。

ひだ：白色で、柄に離生し、やや密。

柄：白色または黄色で、表面に帯黄褐色の繊維状の小鱗片をおび、基部は太まり、白色袋状のつぼがある。

※平成元年、道東でタマゴタケモドキによる食中毒で2名が死亡した。



代表的な毒きのこ

危険 シャグマアミガサタケ

春、針葉樹のマツ、モミ、トドマツ、エゾマツ、スギなどの林内に発生する。誤食すれば、激しいおう吐と下痢に続き、黄疸や肝障害、腎臓障害を起こし、最悪の時は死に至る。

頭部：径3～10cm、脳状の不規則なしわのかたまりからなり、褐色～赤褐色。

柄：高さは2～7cm。

表面は白色～クリーム色、あるいはうすい淡黄褐色をおび、中空で、不規則なくぼみがあり、根元はふくらむ。



オオワライタケ

夏から秋、ミズナラ、その他の広葉樹、または針葉樹の生木や枯木に発生する。ときに単生するが、ふつう十数本が大きな株状になって束生する。つよい苦味があり、においは溫和。誤食すれば神経の興奮状態や幻覚症状をあらわす。

傘：径5～17cm、はじめ丸山形、のち開いて扁平となり、黄金色、黄褐色で繊維紋をあらわす。肉は黄色。

ひだ：はじめ黄色、のちさび色となり、柄に直生し、密。

柄：根元が太まり、傘面と同色、上部に不完全なつぼがある。



代表的な毒きのこ



オオキヌハダトマヤタケ

夏から秋、広葉樹の林内に発生する。誤食すると多量の汗をかき、呼吸困難などを起こす。

傘：径2～6.5cm、はじめ円錐形、のち周辺が平らからそり返る。表面は黄土色か帯褐黄土色、中央は褐色、繊維状のち放射状に裂ける。肉は白色。

ひだ：黄白色のちオリーブ褐色となり、柄に上生か離生し、密。

柄：表面が白色で繊維状、絹光沢がある。

クロトマヤタケ

夏から秋、針葉樹、広葉樹の林内、路傍に群生または単生する。誤食すると、発汗、全身の震え、下痢のほか、肝障害などを起こす。

傘：径1～4cm、まんじゅう形から平らに開く。やや中高。表面は繊維状で小鱗片を有し、暗褐色。

柄：繊維状で傘と同色。上部は淡色。

※昭和50年、札幌市内でクロトマヤタケによる食中毒で1名が死亡した。



代表的な毒きのこ

スギヒラタケ

秋、針葉樹(特にスギ)の倒木や古い切り株などに群生する。

傘：径2～6cm、扇形～楕円形、ときにへら形で肉は薄い。表面ははじめ純白で、のちに淡暗色になる。

ひだ：密で白色、枝分かれする。

柄：柄はない。

※長い間食用とされてきたが、平成16年にスギヒラタケを食べた人の脳症発生事例が報告されたため、厚生労働省では、安全性が確認されるまでの間、スギヒラタケの摂取について見合わせるよう注意喚起している。



スギヒラタケとよく似た食用きのこ

ウスヒラタケ

食用とされるウスヒラタケはひだが枝分かれしていない。春から秋、広葉樹の倒木、落枝上に群生する。粉臭がする。

傘：径2～8cm、扇形。表面ははじめ淡灰褐色で、のちに白色～淡黄色。はじめから白色の場合もある。

ひだ：密ではじめ白色、のちにクリーム色。

柄：0.5～1.5 cmと短く、ないものも多い。



幻覚性きのこ



ヒカゲシビレタケ

麻薬成分を含み、採取、所持、栽培、使用、譲渡、譲受が禁止されているきのこ（いわゆるマジックマッシュルーム、幻覚性きのこ）の1種である。夏～秋、道端、公園、林地の陽地～半陰地に群生～束生する。誤食すると、手足のしびれ、まひ、幻覚をおこす。ナラタケと間違えて食べて中毒を起こした事例がある。

特 徴

- 傘：径1～5cm、表面は褐色～黄土褐色、粘性はない。
- ひだ：表面と同色で直生～上生、密、傷つけると青変する。
- 柄：淡黄色～淡黄土色、後に下部は褐色～暗褐色になる。繊維質で硬く中空。つばはない。傷つけると青変する。